

# 知る

MASAKI



義農作兵衛坐像



瀧姫神社

## 時空を超える、まさきの精神。

### 義農作兵衛 11 MAP

伊予郡松前町筒井

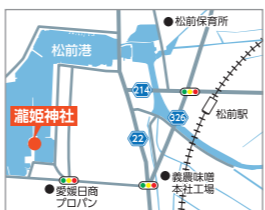
享保17(1732)年の大飢饉。村民は食べ物がなく、麦種まで食べました。一方、貧しい農家であった作兵衛は「一粒の種子が来年には百粒も千粒にもなる。わずかの日生きる自分が食してしまって、どうして来年の種子ができるか。身を犠牲にして幾百人の命を救うことができたなら私の本望である」と、麦種一粒食することなく後世に残し、大義に死にました。彼の死後、義農神社や坐像が建立され、毎年4月23日には義農祭も開催されています。町民一人一人の心の中に、今日も生き続ける義農作兵衛。その奉仕の心は「義農精神」と呼ばれています。



### 瀧姫神社 12 MAP

伊予郡松前町浜

永承年間(1046～1052年)。京都の公卿の妹、御多喜津姫(瀧姫)が身分違いの愛を遂げようとして罪に問われ、伊予の国に流刑となりました。(諸説あります。)人情厚い松前の人々に心を動かされた瀧姫は、ここを永住の地と定め魚の行商を行いました。その姿は、平元結に銀のかんざし、黒羽二重の紋服に裾をからげ、どんすの帯を前結びにし、桶を頭上に頂いたとされています。これが売魚女「おたた」の始まりです。生き生きと働くおたたは職業婦人の元祖ともいえるのではないのでしょうか。



# 味わう

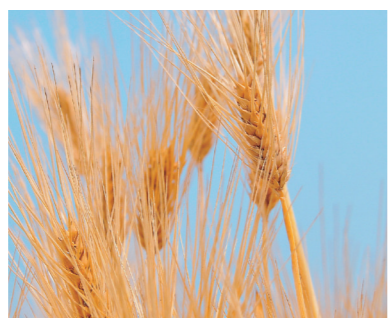
MASAKI

## あなたに自慢したい。まさきの恵み。



白ネギ・レタス

生でシャキシャキ、煮るとトロトロ、甘みがあってとてもおいしい白ネギ。菌切れがよく、パリッとした食感が魅力のレタス。「スラリと伸びる美脚」と「光る宝石」は、どちらも松前町の豊富な地下水で育った、恵みの品です。



裸麦

麦ごはん、麦みそ、しょう油、お菓子などさまざまな形で食べられており、松前町は一大生産地です。栄養面でも米より豊富な食物繊維を含み、がん予防に効果があるといわれる裸麦。その黄金色は見る人を和ませるだけでなく、体内からも輝きを与えてくれます。



珍味

松前町は珍味発祥の地。瀬戸内海でとれる新鮮な小魚を主原料とし、古くから極めて良質の珍味として、重宝されています。現在も国内の小魚珍味の大半を生産しており、お酒のつまみとしてはもちろん、カルシウム食品としても全国で親しまれています。

# 楽しむ

MASAKI

## ココロ、オドル。まさきの祭り。

ライトアップされた松前公園。軽快な音楽と力強い太鼓が、「まさき音頭」の始まりの合図だ。老いも若きも、体にしみ込んだこの音頭を、みんなが輪になって踊る。汗はキラキラと輝き、笑顔は自然とこぼれ、祭りの熱気は最高潮を迎える。もう天気が暑いのか、それとも祭りが熱いのか分からない。ただ、こう思う。夏祭りは、こうでなくちゃ！



# 夏祭り

8月

真夏の塩屋海岸。太陽が照りつける海で、「はんぎり」と呼ばれる、たらいに選手は乗り込む。膝の上下動だけで懸命にはんぎりを動かし、一秒でも早くゴールを目指す。



### 文化祭 10月

義農太鼓のパフォーマンスに「ワクワク」。慣れないお茶の作法に「ドキドキ」。心癒やされる作品に触れ「ほのぼの」。伝統ある芸能発表に「しみじみ」。訪れた人だれもが、まさきの文化を体感できる祭りです。

### たわわ祭 11月

「まさきをもっと元気に！」という思いで、魅力的な農水産物、匠の技から生まれる製品、それらを作る魅力的な人や企業が集結。まさきの実りがあふれ、実も、こころもたわわになれる祭りです。

### 松前町国体記念ホッケー公園

愛媛県では初となる、公益社団法人日本ホッケー協会の公認人工芝競技場で、目にも鮮やかな青い人工芝が特徴です。松前町では、小・中学生の発掘・指導にも力を入れており、今後も、大会を誘致しながらホッケーの聖地を目指したまちづくりを進めます。

